

木曽広域景観エリアの景観育成方針

塩尻市(旧檜川村)、上松町、南木曽町、木曽町、木祖村、王滝村、大桑村

1. 木曽広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- 中央アルプスと御嶽山系の3000m級の山々に挟まれ、総面積の約93%を森林が占める。
- 木曽川の浸食によって形成された南北約60kmにわたりV字谷地形（木曽谷）が連続する。

○道路・交通(交通景観軸)

- 木曽川沿いの南北にJR中央本線と国道19号が、東西に国道361号が通り、主要な交通軸を形成している。
- 旧中山道が木曽谷の限られた谷地を縫うように連続し、開田高原にかけての山間を通る旧飛騨街道や、霊峰・御嶽山へ続く御嶽古道等が連なる。

○河川・水辺(河川景観軸)

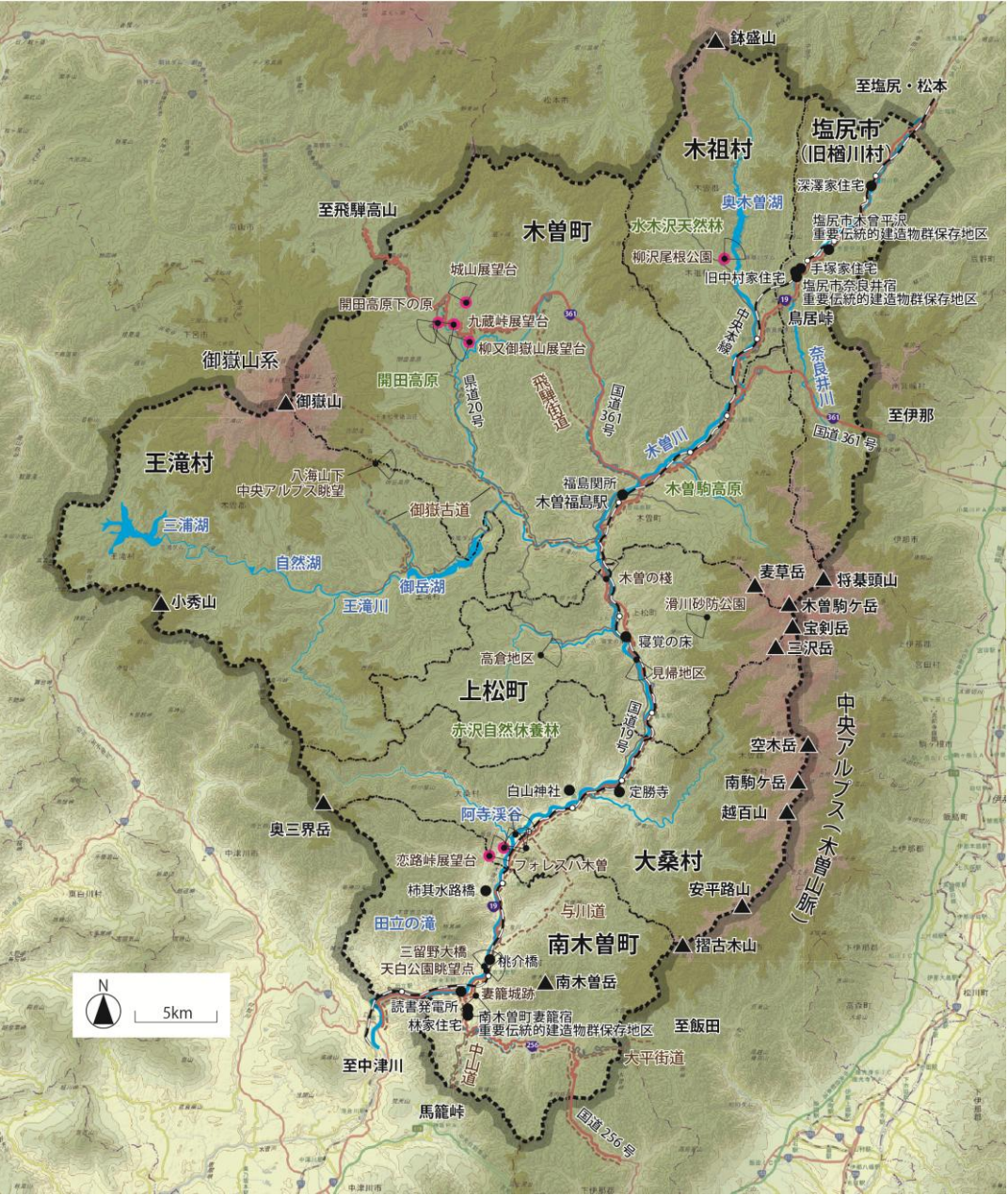
- 木曽谷の主要な河川である木曽川は、寝覚の床といった景勝地等独特の河川景観を作り出している。
- 山間部では奥木曽湖や自然湖、阿寺溪谷や柿其溪谷等、急峻な自然地形が美しい景観を作り出している。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 室町時代後期には集落の形成が始まり、江戸時代に入り中山道が整備されると、木曽路（旧中山道のうち贄川宿〜馬籠宿間の俗称）は交通の要衝として11の宿場町が形成された。
- 重要伝統的建造物群保存地区に指定されている妻籠宿、奈良井宿、木曽平沢をはじめ、木曽路の歴史的なまち並みは重要な観光資源となっている。

○産業の景観

- 開田高原を中心とした高原地帯で栽培されるブランド野菜「御嶽はくさい」等の栽培をはじめ、木曾かぶ（赤かぶ）を乳酸発酵させた伝統的な発酵食品「すんき漬け」等、独自の食文化が根付いている。
- 豊富な森林資源を活かした林業が盛んであり、「木曽ヒノキ」はその美しい景観から日本三大美林に位置づけられている。また、木曽漆器等の地場産業やかつての森林鉄道を転用した観光列車等、製造業や観光業等の地域産業と深い関りがある。
- 豊富な水量と落差の大きい木曽川の地形を生かした水力発電施設が点在し、国の重要文化財や近代化産業遺産に指定されている。



大切にしたい特徴

中央アルプス・御嶽山系への眺め／複雑な地形が織りなす木曽谷・木曽川沿いの自然景観／高原や山間部に広がる農林業の風景／地域で受け継がれてきた地場産業、祭り・民族芸能の景観／旧街道に息づく宿場町の歴史・文化的景観／木曽川沿いの近代遺産

主な視対象(広域的な景観要素)

- 木曽川、寝覚めの床、阿寺溪谷等の水辺景観
- 御嶽山・中央アルプス(木曽山脈)の山並み
- 木曽谷の棚田・開田高原の田園風景
- 旧中山道宿場町のまち並みと背後の山並み
- JR中央線、国道19号、国道361号の沿道景観



奈良井宿アイスカンドル祭り(塩尻市)



赤沢自然休養林と森林鉄道(上松町)



妻籠宿のまち並み(南木曽町)



御嶽山と開田高原(木曽町)



御嶽はくさいの栽培風景(木祖村)



御嶽古道(王滝村)



阿寺溪谷(大桑村)

2. 木曽広域景観エリアの育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- ① 本エリアの急峻な地形が織りなす寝覚めの床、阿寺溪谷、自然湖等の自然景観、御嶽山や中央アルプスへの眺め、御嶽山麓に広がる開田高原の景観、旧中山道の宿場町や山間の林業が育んできた歴史・文化的資源の維持・保全・活用を図る
- ② 地域住民の暮らしを豊かにするとともに、既往団体等と連携し、観光や農林業と連携して広域景観としての魅力を高め、本エリアの価値向上や地域の活性化を目指す
- ③ インバウンドを含めた多様な来訪者に親しまれ、観光資源としても重要な場所や資源を周囲の景観と調和するよう良好に保全・創造するとともに、これらをネットワークし、エリアを巡る楽しみを育成する。

2)広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- ・ 御嶽山と山麓の開田高原を望む眺望景観（例；柳又御嶽山展望台、九蔵峠展望台等）
- ・ 木曽谷から中央アルプスを望む眺望景観（例；恋路峠展望台、阿寺橋等）
- ・ 木曽川沿いの自然を望む眺望景観（例；天白公園眺望点、寝覚めの床等）
- ・ 宿場町のまち並みと背後の山並みが一体となった眺望景観（奈良井宿、妻籠宿、福島宿等）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：開田高原(御嶽山麓)周辺

- ・ 景観に影響を及ぼす開発行為に対する景観に関するルールづくりの検討、既存の景観に関連する取組との連携（例；木曽町開田高原景観指針）
- ・ 高原の栽培景観と生業が一体となった集落・田園景観、山並み・地形等特徴的な景観の保全・育成
- ・ 開田高原を望む視点場の滞留空間や案内サインの整備

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：木曽川、JR中央線、国道19号、中山道とその周辺

- ・ 木曽谷の一体感ある広域景観の育成に向けた建築物等の景観に関するルールづくりの検討（重点地域検討）
- ・ 宿場ごとの伝統的な建築様式・まち並みの保存・継承
- ・ 木曽谷の広域交通軸（JR中央本線、国道19号、旧中山道）における屋外広告物のルールづくり
- ・ 木曽路の統一案内サインの維持・保全

●対象地域：景観拠点へのアクセス道路・街道・河川

（国道361号、県道20号、県道26号、県道473号、飛騨街道、御嶽古道、与川道、木曽森林鉄道跡、王滝川等）

- ・ 自然景観と調和した沿道沿いの車窓景観、シークエンス景観の育成
- ・ 屋外広告物の統一感を持ったルールづくり、インバウンドにも対応した案内サインのデザイン検討
- ・ 街道筋や森林鉄道跡に残る歴史的な資源の保全・活用等

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

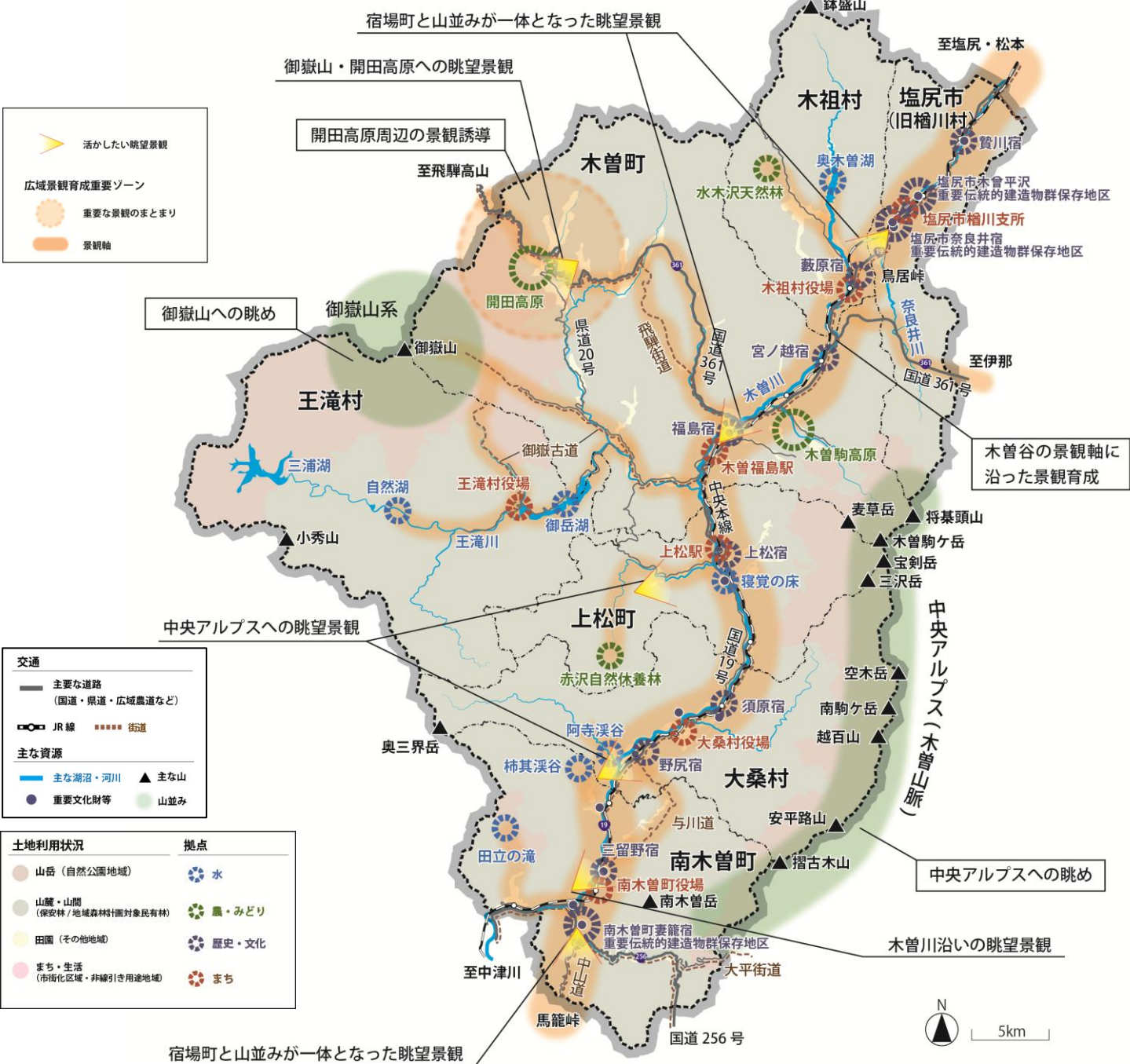
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- ・ 既存住民協定地区の協定運営等住民活動の支援と担い手の育成
- ・ 協定制度を活用した宿場町周辺のまち並み景観育成と住環境の向上（福島宿、宮ノ越宿、須原宿等）
- ・ 旧中山道沿いに連続する住民協定地区の広域的な連携

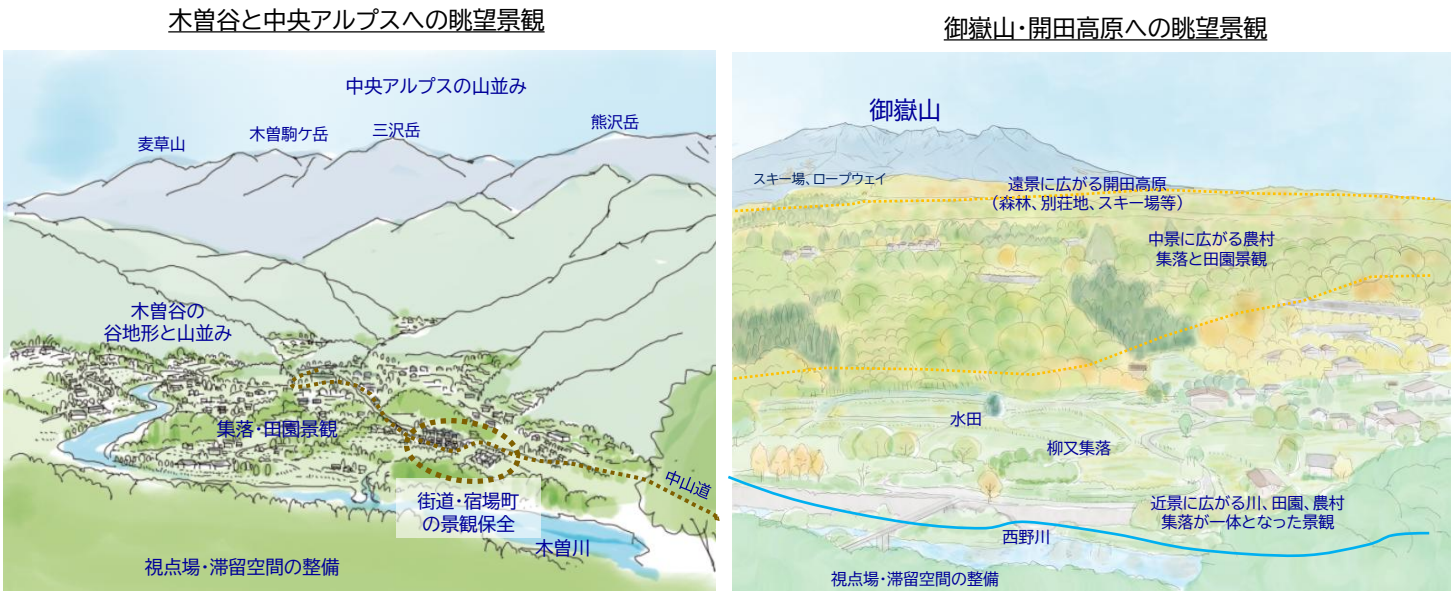
② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- ・ 広域的な協議体を通じた、各町村・地域住民活動の情報交換や協力体制の構築
- ・ 木曽路に点在する歴史的資源（宿場町、発電所等）や自然景観（山岳、森林、溪谷、湖等）の保全と、これら資源を活用したアクティビティの創出やストーリーづくりによる広域的ツーリズムの推進
- ・ 木曽エリアに受け継がれてきた文化的景観を継承する担い手の育成・支援と新規ブランド開発による地域振興（開田高原周辺の農業景観や木曽馬の飼育風景、木曽山中の林業や木曽漆器・ろくろ細工等地場産業、木曽踊りや須原ばねそ、らぼっしょに代表される祭り・民俗芸能等）

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



2. 松本広域景観エリアの育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- 北アルプス上高地、美ヶ原、聖山高原等多彩な自然環境、安曇野へと連なる松本平を中心として形成されてきた市街地、田園・集落地の一体性やつながり、景観の秩序を維持し、継承していく。
- 松本市の城下町を中心とした善光寺街道や中山道、千国街道の宿場・街道筋に残る歴史的資源を活かし、エリアの歴史的特徴を引き立てる。
- 交通の要衝地として主要道路や鉄道からのシークエンス景観を大切にし、エリアが持つ美しい景観イメージの維持や更なる醸成を図る。
- ワインバレーやサラダ街道を活かし、農村風景を食とともに味わう体験ツアー等、エリアの魅力をさらにPRしていく取組を検討する。

2)広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- 北アルプスや美ヶ原の山並みを中心に松本平と一体となった眺望景観（例：鉢盛山等）
- 八ヶ岳や遠方の山並みへの眺望景観（例：高ボッチ高原等）
- 聖高原から善光寺平への眺望景観

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：山並みを背景とした松本市街地・塩尻市街地及びこれを取り巻く松本平の広域景観の育成

- 松本平周囲の山並みを背景とした建築物等への眺望景観の確保
- 大町・安曇野エリアと連続する田園の屋敷林等の維持保全策の検討
- 田園景観と調和した沿道施設等（屋外広告物、太陽光発電施設等）の誘導

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：歴史的な街道筋や農と一体となった道路

（中山道、善光寺街道、日本アルプスサラダ街道）

- 旧街道を軸とした歴史・文化的景観の育成
- サラダ街道を軸とした農の景観のネットワーク化
- 建築物や屋外広告物の統一感を持った規制誘導、広域案内サインの整備

●対象地域：景観拠点へのアクセス道路・街道・河川

（国道19号・国道143号、高速道路(中央道)、JR中央本線・JR篠ノ井線等）

- シークエンス景観の育成、広域案内サインの整備
- 統一感を持った屋外広告物設置の推進（規制地域の検討や統一した案内サインの検討）
- 高速道路の沿道における屋外広告物のルールづくり（屋外広告物規制による統一感を持った景観誘導等）

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

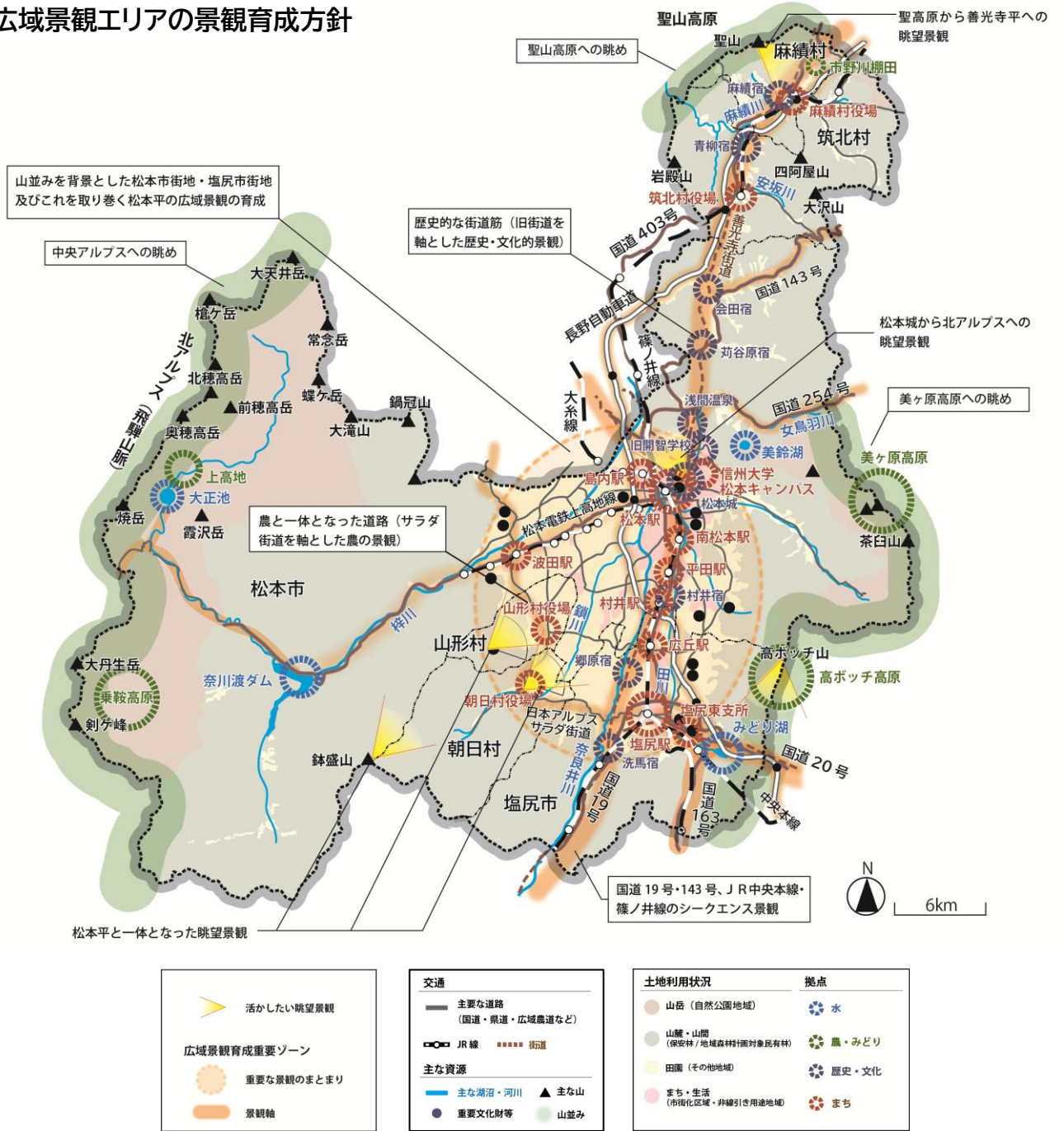
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- 既定の住民協定・住民活動の支援及び締結地区拡大の需要に応じた支援
- 里山や耕作地等での新たな宅地開発の動向を踏まえ、各市町村の土地利用施策や地域住民のまちづくり活動支援と連携した景観育成（住民協定活用 of の支援等）

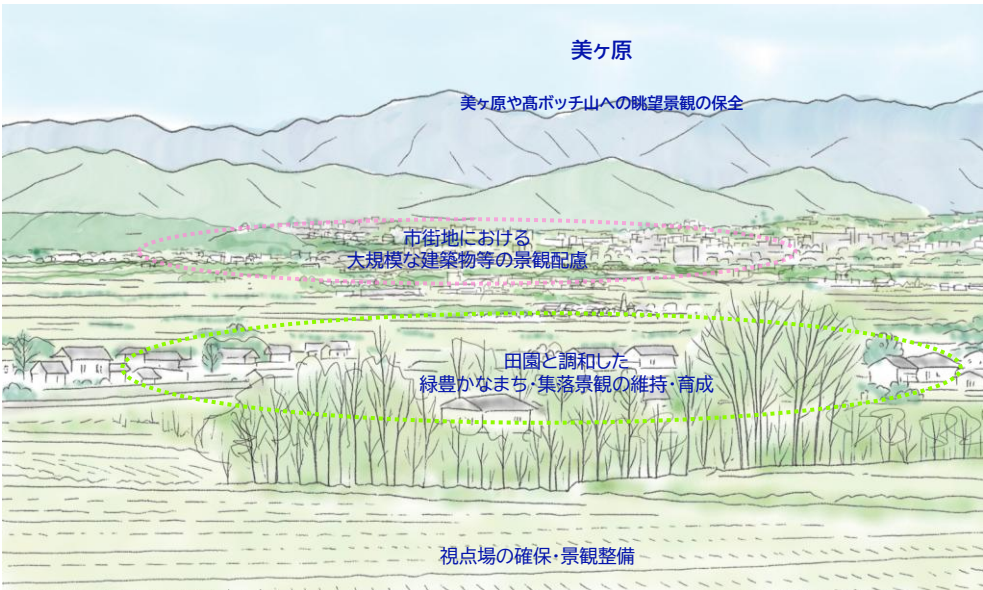
② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- 旧街道の歴史的・文化的な資産を活かした地域間交流等の促進
→交通の要所であった地理的特性、旧街道ごとに見られる役割、複数の宿場や歴史的な建造物等をストーリー化し、歴史的資源の保全や地域間交流の促進を図る（中山道、善光寺街道、千国街道、野麦街道）
→旧街道における統一サイン整備や景観を楽しむ場等新たな価値の検討
- 自然資源や特産物と景観を結びつけるエリア振興策の検討
→「水」や「農作物」をテーマとした観光や生業と景観とつながりを強化し、新たなエリアの価値を創造

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



大町・安曇野広域景観エリアの景観育成方針

大町市、安曇野市、生坂村、池田町、松川村

1. 大町・安曇野広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- ・西は北アルプス 3,000m級と前衛2,000m級の山（西山）が、東は中山山地、千曲山地（東山）が連なり、安曇野と呼ばれる松本盆地北部の低地部を囲んでいる。
- ・これら東西の山並みを背景に、屋敷林・田園風景や果樹園、河川等の眺望や、上生坂の集落を望む眺望等が「ふるさとに見える（丘）」に指定されている。

○道路・交通(交通景観軸)

- ・高瀬川流域は国道147号、県道51号、オリンピック道路、ＪＲ大糸線等南北の交通軸と、県道等の東西道路で構成され、犀川流域では国道19号、国道403号、JR篠ノ井線が地域の交通軸を担っている。

○河川・水辺(河川景観軸)

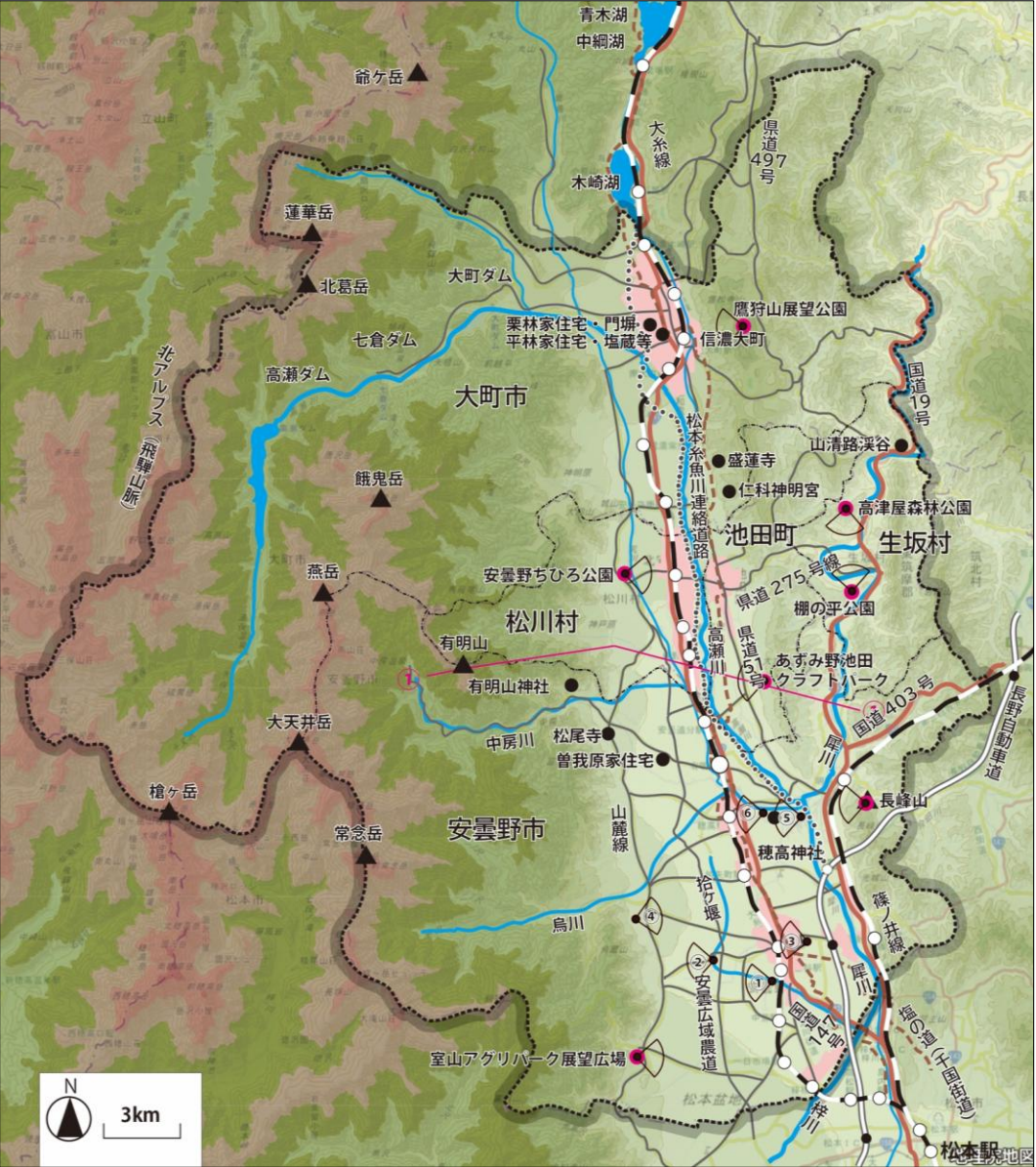
- ・槍ヶ岳等を水源とする高瀬川がエリア中央部を南北に流れ、梓川と合流して犀川となり、生坂村を経由し、善光寺平方面に流下している。
- ・犀川と麻績川との合流点にある山清路の溪谷は景勝地としても有名である。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- ・江戸期の拾ヶ堰（1816）整備等新田開発が進み、豊富な湧水を背景に、近代以降わさびやニジマス養殖等の特産も開発された。
- ・千国街道（塩の道）沿いの成相新田宿、保高宿、池田宿や大町宿に町家・蔵等が点在し、石碑や水路等に往事をしのぶことができる。
- ・国指定の文化財として大町市の仁科神明宮（国宝）、盛蓮寺（重要文化財）、安曇野市の松尾寺（重要文化財）等がある。
- ・エリア内に多く点在する道祖神はその数とともに双体道祖神の愛らしさ等が固有の景観資源となっている。

○産業の景観

- ・低地部に広がる田園と集落・屋敷林の連なりは山麓部の果樹園や山並みと一体となって安曇野を象徴する風景となっている。
- ・松川村の酒米、安曇野市西部の烏川扇状地や神戸原扇状地等でりんご等の栽培、高瀬川沿い等でのわさび栽培、生坂村のブドウ栽培、池田町の東山傾斜地等でワイン用ブドウの栽培等、気候風土を活かした多様な農作物の栽培が行われている。

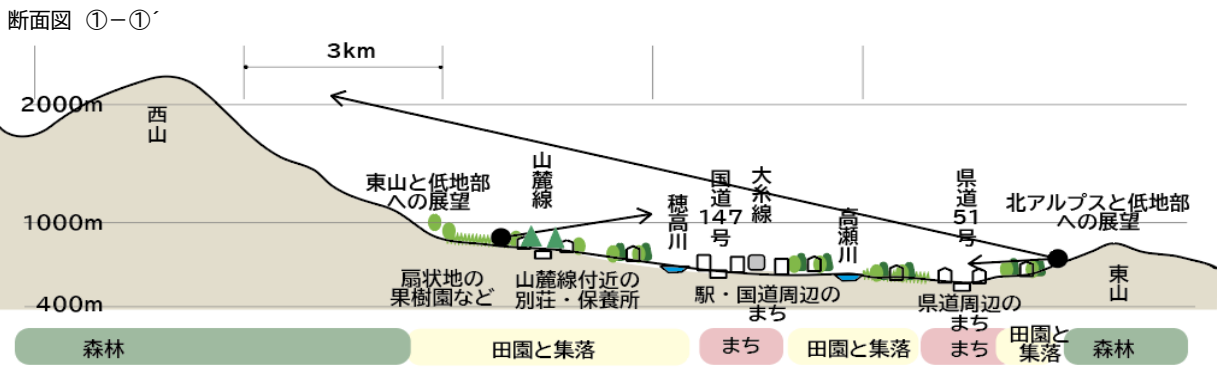


大切にしたい特徴

北アルプスと安曇野の田園風景や屋敷林の眺め／地下水や水田開発により生まれた複数の湧水やわさび田、レクリエーションの景観／旧街道や集落に歴史的な資源や暮らしの文化／梓橋で分岐する高瀬川流域の景観と、犀川流域の明科～生坂村へと連なる景観とのつながり

主な視対象(広域的な景観要素)

- ・常念岳、大天井、有明山、蓮華岳、白馬三山等雄大な北アルプスの連なり
- ・低地の田園・集落と屋敷林や山麓の果樹園の風景
- ・梓川、高瀬川、犀川



早春賦歌碑公園からの眺め(安曇野市)



あずみ野クラフトパークからの眺め(池田町)



棚の平公園からの眺め(生坂村)



安曇野湧水群(安曇野市)



大町宿(大町市)



曾根原家住宅(安曇野市)

2. 大町・安曇野広域景観エリアの育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- ① 山並み・田園集落で構成される安曇野風景を大切にし、伝統的な生活文化として維持・保全を図る。
- ② 新規の沿道型立地や、移住等による宅地開発の動向を踏まえ、地域住民による協定等培われてきた景観誘導手法を活かす。
- ③ 塩の道や道祖神等の歴史文化や近代以降の別荘文化等、時代の文脈とともに追加されてきた景観資源を大切にす地域住民活動を尊重し、安曇野の文化としての景観育成を支援していく。

2)広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- ・ 東山から北アルプスの山並みや安曇野田園集落を望む眺望景観（例：あずみの池田クラフトパーク等）
- ・ 西山から東山や安曇野田園集落を望む眺望景観（例：安曇野ちひろ公園等）
- ・ 田園内から周辺の山並みへの眺望景観（道の駅アルプスほりがねの里等）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：屋敷林と田園風景による安曇野らしい原風景の景観保全

- ・ 北アルプスへの眺めや田園景観との調和に配慮した建築物や屋外広告物の誘導
- ・ 周辺市町村を含めた統一した案内サインの検討（既存サインの整理統合を含む）
- ・ 伝統的な屋敷林や農家住宅の維持保全に係る支援措置の検討

③景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

③-1 北アルプスや高瀬川と並走する幹線道路等

●対象地域：国道147号、松本系魚川道路、北アルプスパノラマロード、JR大糸線等

- ・ 自然景観と調和した沿道沿いの車窓景観、シークエンス景観の育成
- ・ 松本系魚川連絡道路整備に際しての道路施設デザインの景観配慮

③-2 白馬バレー広域景観エリアに連続する広域的な景観育成

●対象地域：国道147号・148号沿道景観育成重点地域をベースとした周辺区域

- ・ 北アルプスを背景とした建築物や工作物の誘導と景観育成基準の検討（重点地域の検討等）
（長野県景観育成計画・安曇野市景観計画・大町市景観計画の調整）
- ・ 統一感を持った屋外広告物設置の推進（規制地域の検討や統一した案内サインの検討）

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

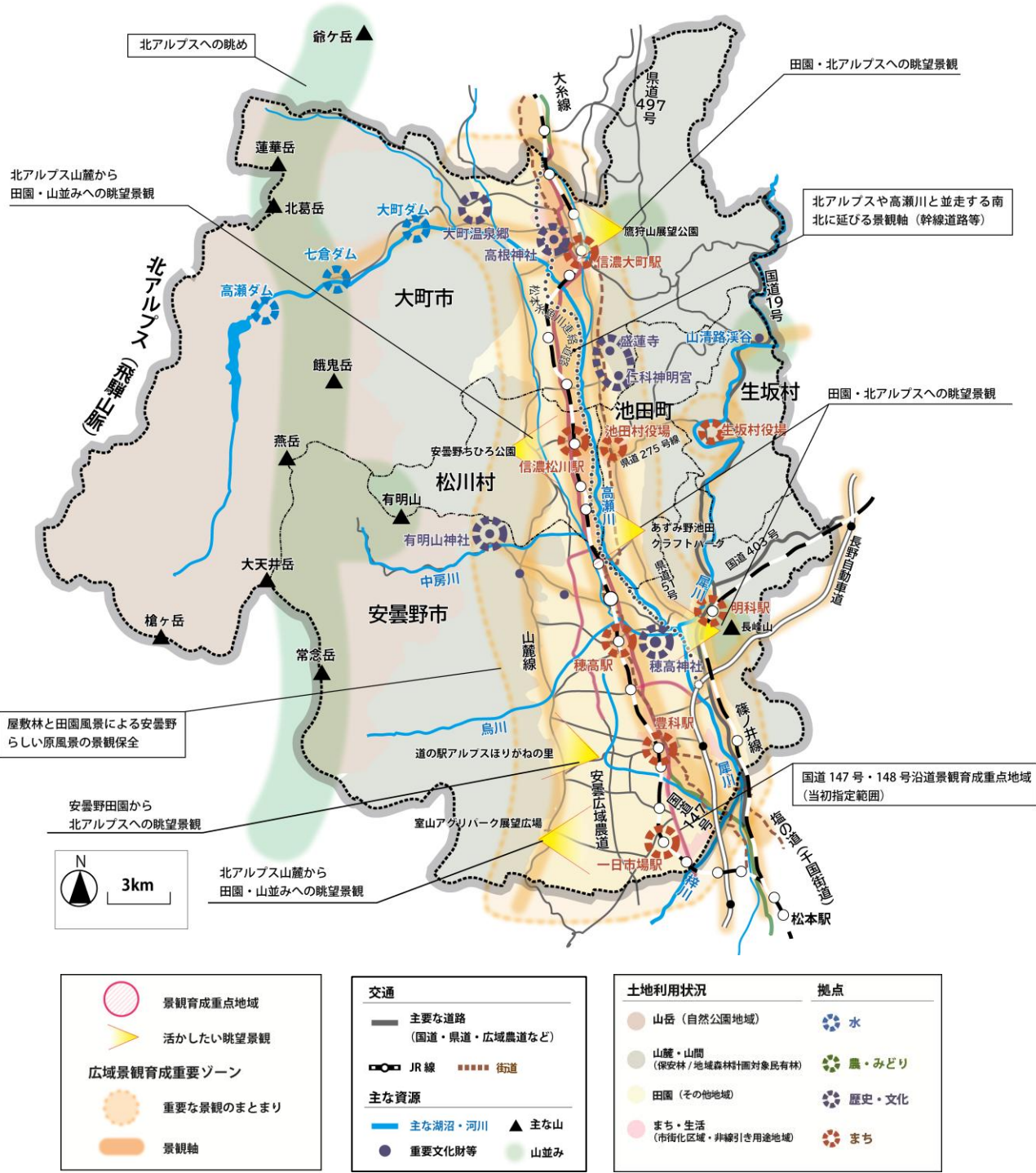
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- ・ 安曇野IC～松本系魚川連絡道路や山麓線沿道等、開発動向に応じ、主要路線を中心に展開してきた住民協定・住民活動の支援
- ・ 里山や耕作地等での新たな宅地開発の動向を踏まえ、各市町村の土地利用施策や地域住民のまちづくり活動支援と連携した景観育成（住民協定活用の支援等）

② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- ・ 景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり
→各市町村や住民主体による田園・屋敷林や、千国街道等のガイドツアー・交流会の情報連携やイベント連携（白馬バレーエリアとの連携も検討）
- ・ 特産物と景観を結びつけるエリア振興策（情報交換や協力体制構築）の検討
→水・酒米・複数の酒造が揃い、ワインバレーも有するエリアとしての特徴を活かした酒蔵ツーリズム推進や地場食材体験の場づくり等

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



白馬バレー広域景観エリアの景観育成方針

大町市、白馬村、小谷村

1. 白馬バレー広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- 西を北アルプス、東を小谷山地に囲まれた白馬盆地とで構成され、随所より北アルプス3000m級の山々の連なりを間近に望む山岳都市の景観を有する。
- 夏場でも雪渓の残る山岳と、前景に見られる季節の彩りとの対比が特徴的であり、県内で本エリア内のみ氷河が確認されている4つの雪渓（カクネ里、唐松沢、杓子沢、不帰沢）はのうち、杓子沢氷河はまちなかからも眺められる身近なものであり、山岳ツーリズムの推進や地域学習・環境教育としての活用も期待される。
- ジャンプ台等のオリンピック施設に代表される自然景観を生かしたレクリエーション景観が広がっている。
- 県指定の「ふるさとのお見える（丘）」や「眺望点」は北アルプス山麓のスキー場や山麓の公園が選ばれ、地域の生活圏と山の眺望の組み合わせで構成されている。

○道路・交通(交通景観軸)

- 盆地中央部をエリアの主要な交通動線であるJR大糸線や国道148号が通る他、県道長野大町線や白馬美麻線も長野駅からこのエリアのアプローチルートとして重要である。
- 歴史的な交通軸として千国街道（塩の道）がJR大糸線至近を南北に通る、荷継ぎ町として栄えた大町宿、牛と牛方が一緒に寝泊まりしたとされる牛方宿等、随所にその面影が見られる。

○河川・水辺(河川景観軸)

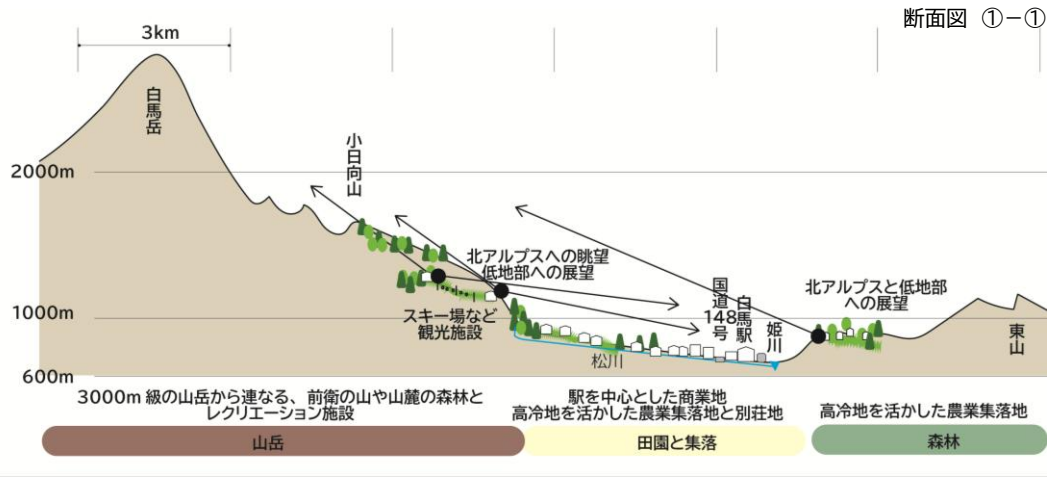
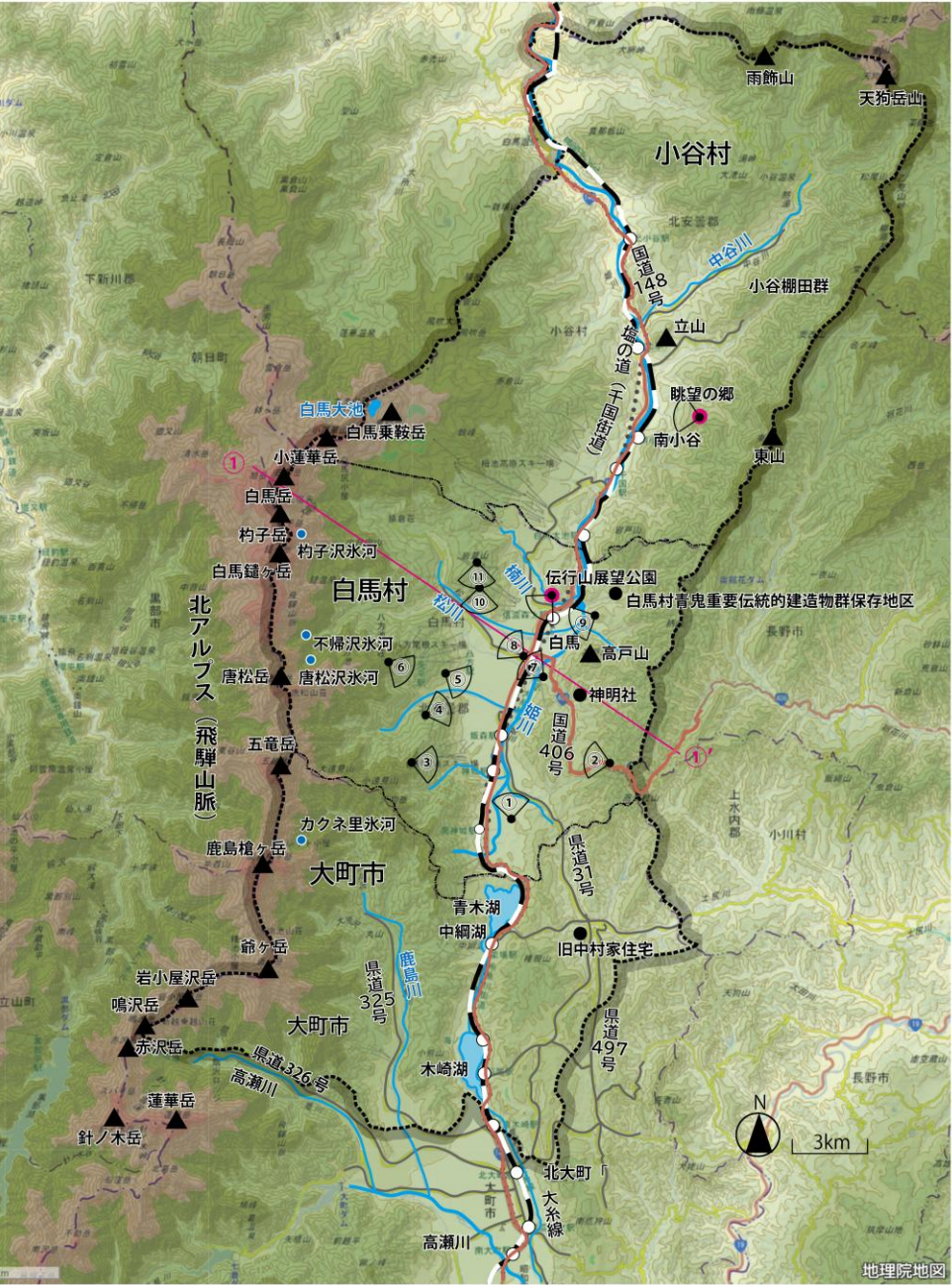
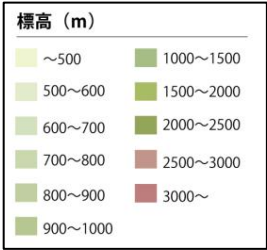
- エリア中央を流れる姫川は糸魚川・静岡構造線（フォッサマグナ）の西縁に沿って流れている。その水源は国道・民家至近の白馬村の親海湿原の湧水であり、姫川源流自然探勝園として公開されている。
- 大町市北部にある仁科三湖（青木湖、木崎湖、中綱湖）は湖底からの湧水による透明度を誇り、それぞれ特色ある水辺アクティビティが充実し、人々に親しまれている。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 歴史的な交通軸として千国街道（塩の道）がJR大糸線至近を南北に通る、その歴史は縄文時代、白馬一帯で産出されたヒスイの交易にあるとされる。荷継ぎ町として栄えた大町宿、牛と牛方が一緒に寝泊まりしたとされる牛方宿等、随所にその面影が見られる。
- 白馬村の東部山間部には重要伝統的建造物群保存地区に選定された青鬼集落があり、棚田や青鬼堰とともに昔ながらの山村集落の姿を今に伝えている。

○産業の景観

- 低地部や山間部等で、高冷な気候風土に根ざした、多様な特産品（紫米、雪中キャベツ、雪下ニンジン等）が栽培されている。
- 北アルプス山麓部一体は長野五輪会場となる等国内屈指のスキーリゾート地として近代以降より発展し、近年では通年型のリゾート提供地として一層の発展のため、エリア内各市村及び地元観光団体による観光DMO「HAKUBAVALLEYTOURISM」が設立された。
- 国内外のツーリスト向けの発信を行っており、通年型及び滞在型の観光戦略や、自然・歴史的環境の維持等をコンセプトとして広域的な情報発信やエリア内の整備を行っている。
- また「HAKUBAVALLEY八景」という景観を主題とした取り組みも見られる。



大切にしたい特徴

遠景に望む北アルプス白馬連峰、立山連峰への眺め／フォッサマグナが生み出す変化に富んだ地形／自然景観を生かしたレクリエーションの景観(仁科三湖、スキー場等)／平地部の中央を通る姫川、国道148号等のエリアの骨格軸／千国街道(塩の道)や集落に点在する歴史的な資源や暮らしの文化

主な視対象(広域的な景観要素)

- ・白馬駅前や、まちなか、里やリゾート地から望む、北アルプスの山並み
- ・スキー場や丘の上から望むまちや里、田園
- ・国道148号やJR大糸線から望む、仁科三湖と山並み



白馬五竜スキー場、地藏頭からの眺め(白馬村)



伝行山展望公園からの眺め(白馬村)



小谷の集落(小谷村)



どんぐり展望台からの眺め(白馬村)



青木湖(大町市)



青鬼集落(白馬村)



牛方宿(小谷村)

2. 白馬バレー広域景観エリアの景観育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- ① 北アルプスの連なりへの眺めと、地域の生活文化の中に観光リゾート需要を受け止めつつ丁寧に形成されてきたまち・里の景観を守り育て、日本屈指の山岳観光地としての姿を地域で共有していく。
- ② 国道148号や県道白馬美麻線、JR大糸線等、エリアの魅力を感じる白馬バレーへのアプローチ動線からの眺めを活かし、広域的にエリアの魅力を体験できる景観育成を図る。

2)広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- ・ 白馬盆地や田園を見晴らす眺望景観（例：白馬八方尾根スキー場 Gondola 山頂駅、どんぐり公園等）
- ・ エリアの玄関口から北アルプスへの眺望景観（例：白馬駅前等）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：仁科三湖周辺

- ・ 自然豊かな景観や環境に配慮した道路や防護柵、街灯等の公共施設等デザインの検討
- ・ 周辺市町村を含めた統一した景観誘導施策の検討（統一案内サインの設置検討等）

●対象地域：白馬駅及び周辺市街地、山麓部の観光地、集落地域

- ・ JR大糸線車窓や各駅前、国道148号や、県道長野大町線、白馬美麻線等エリアへのアプローチ道路や主要交通軸等から山並みや田園への眺めに配慮した建築物や工作物（屋外広告物。太陽光発電施設）の誘導
- ・ 周辺市町村を含めた統一した案内サインの検討

③景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

③-1 北アルプスや姫川と並走する幹線道路等

●対象地域：国道148号、松本糸魚川道路、JR大糸線

- ・ 自然景観と調和した沿道沿いの車窓景観、シークエンス景観の育成
- ・ 松本糸魚川連絡道路整備に際しての道路施設デザインの景観配慮

③-2 大町・安曇野広域景観エリアに連続する広域的な景観育成

●対象地域：国道147号・148号沿道景観育成重点地域をベースとした周辺区域

- ・ 北アルプスを背景とした建築物や工作物の誘導と景観育成基準の検討（重点地域の検討等）
（長野県景観育成計画、大町市景観計画、白馬村景観計画、小谷村景観づくり計画の調整）
- ・ 統一感を持った屋外広告物設置の推進（規制地域の検討や統一した案内サインの検討）

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

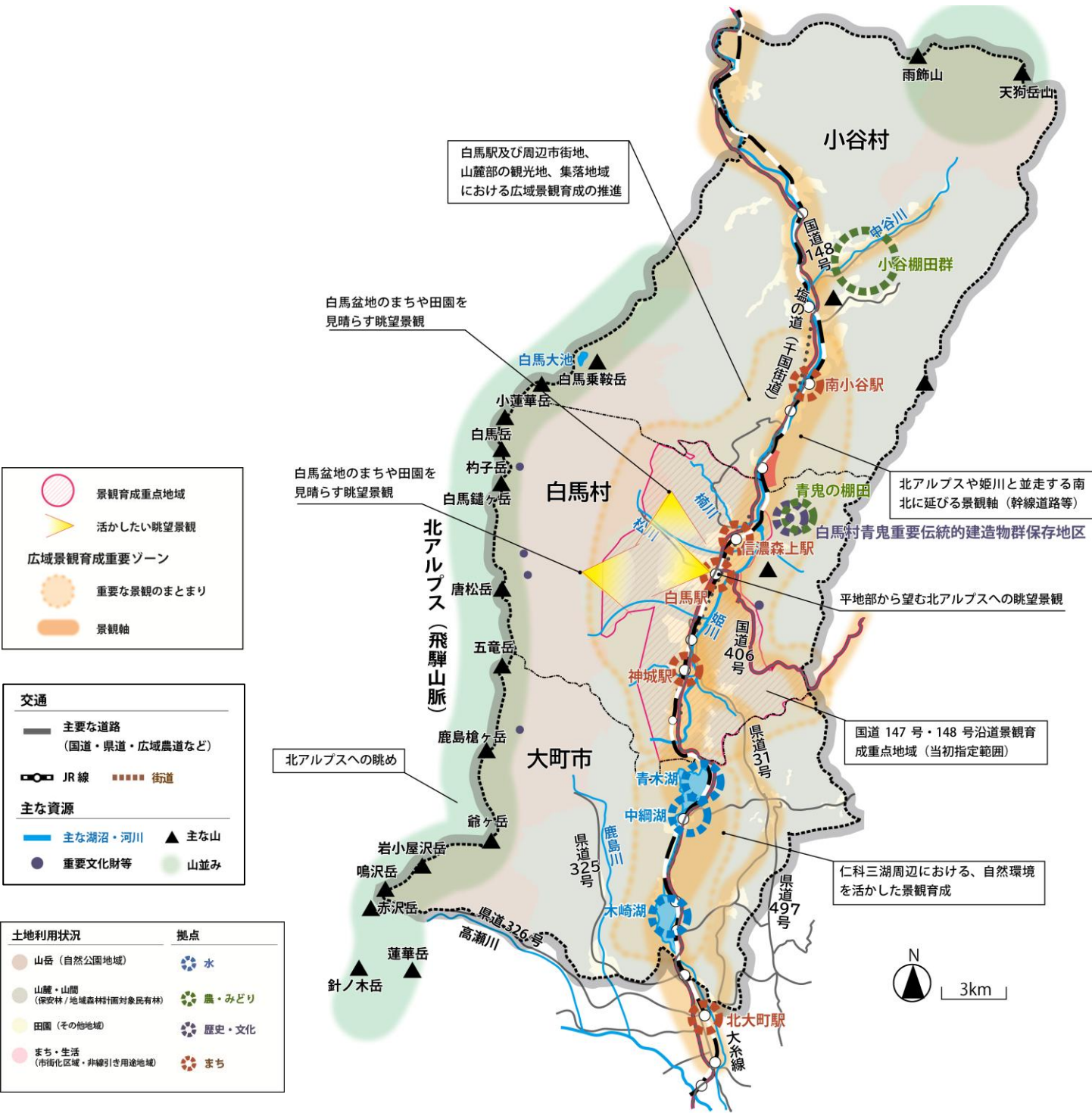
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- ・ 地域住民や店舗営業者等で協力して運営してきた既定の住民協定・住民活動の支援及び締結を検討する地区への検討支援
- ・ 各市町村の土地利用施策や地域住民のまちづくり活動支援と連携した景観育成

② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- ・ 景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり
→各市村や住民主体による千国街道の町家・蔵・塩倉や社寺等、歴史・文化資源のめぐるガイドツアー・交流会の情報連携やイベント連携（大町・安曇野エリアとの連携も検討）
- ・ 特産物と景観を結びつけるエリア振興策（情報交換や協力体制構築）の検討
→気候風土に根ざした特産品（紫米、雪中キャベツ、雪下ニンジン等）と農業集落景観を結びつけた、食と景観の体験プログラム等

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



長野広域景観エリアの景観育成方針

長野市、須坂市、千曲市、小布施町、高山村、信濃町、飯綱町、小川村

1. 長野広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- 千曲川や犀川の扇状地である長野盆地（善光寺平）を中心に周辺の北信五岳等の山地、地すべり等で形成された緩やかな斜面、大小の河川の流れ込み等から変化に富んだ地形が形成されている。
- 都市と農山村・自然が共存するエリアであり、高原エリアに連なる丘陵地は、古墳や城址等が形成された場所も多く、山並みに囲まれた市街地、田園風景等高低差を感じる景観を望む。
- エリアを巡る河川（橋梁、沿川のサイクリングロード、水辺アクティビティ）や多様な交通軸（北陸新幹線、高速道路、幹線道路）を移動しながらシークエンス景観を楽しむことができることも特徴である。

○道路・交通(交通景観軸)

- 善光寺平を中心に、北陸新幹線、鉄道各線、上信越自動車道、長野自動車道、国道403号、国道18号、犀川沿いの国道19号等広域的な交通網が形成され、首都圏、北陸圏との近接性が高い。
- 佐渡の金銀の輸送に使われた北国街道をはじめ、各地と善光寺周辺を結ぶ信仰の道である街道筋が多くあり、宿場町が形成された。

○河川・水辺(河川景観軸)

- 大規模な扇状地を形成する千曲川や犀川が骨格的な軸を形成している。千曲川では、沿川自治体が協働し、親水環境整備や水辺アクティビティの充実、広域観光ルートの構築等に取り組んでいる。
- 池沼、滝、湧水等多様な地形がもたらす水の景観が随所にみられ、北には県内最大の貯水量を誇る天然湖である野尻湖があり、透明な水の広大な景観がみられる。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 約1400年前に創建されたと伝わる善光寺と門前町、各地と善光寺周辺を結ぶ街道筋が巡り、かつての街道沿いには宿場町や舟運で栄えた趣が残るまち並みや石仏等がみられる。
- 山岳信仰や古い歴史を有する社寺、宿坊が連なるまち並み、製糸業で栄えた蔵のまち並み、多くの城跡や社寺、温泉街、おやきをはじめとする固有の食文化等多様な歴史・文化的な景観を有している。

○産業の景観

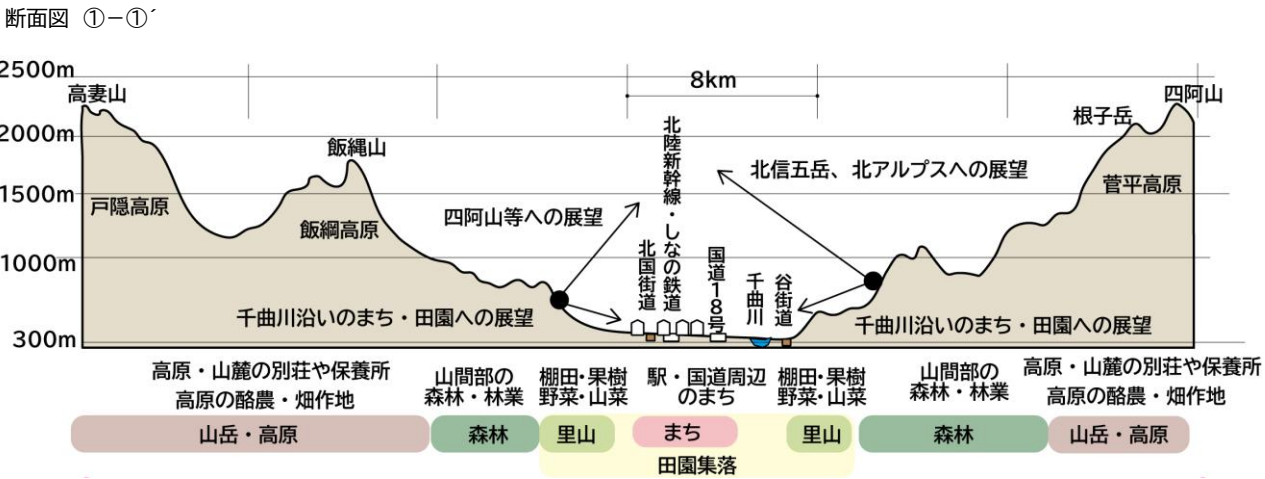
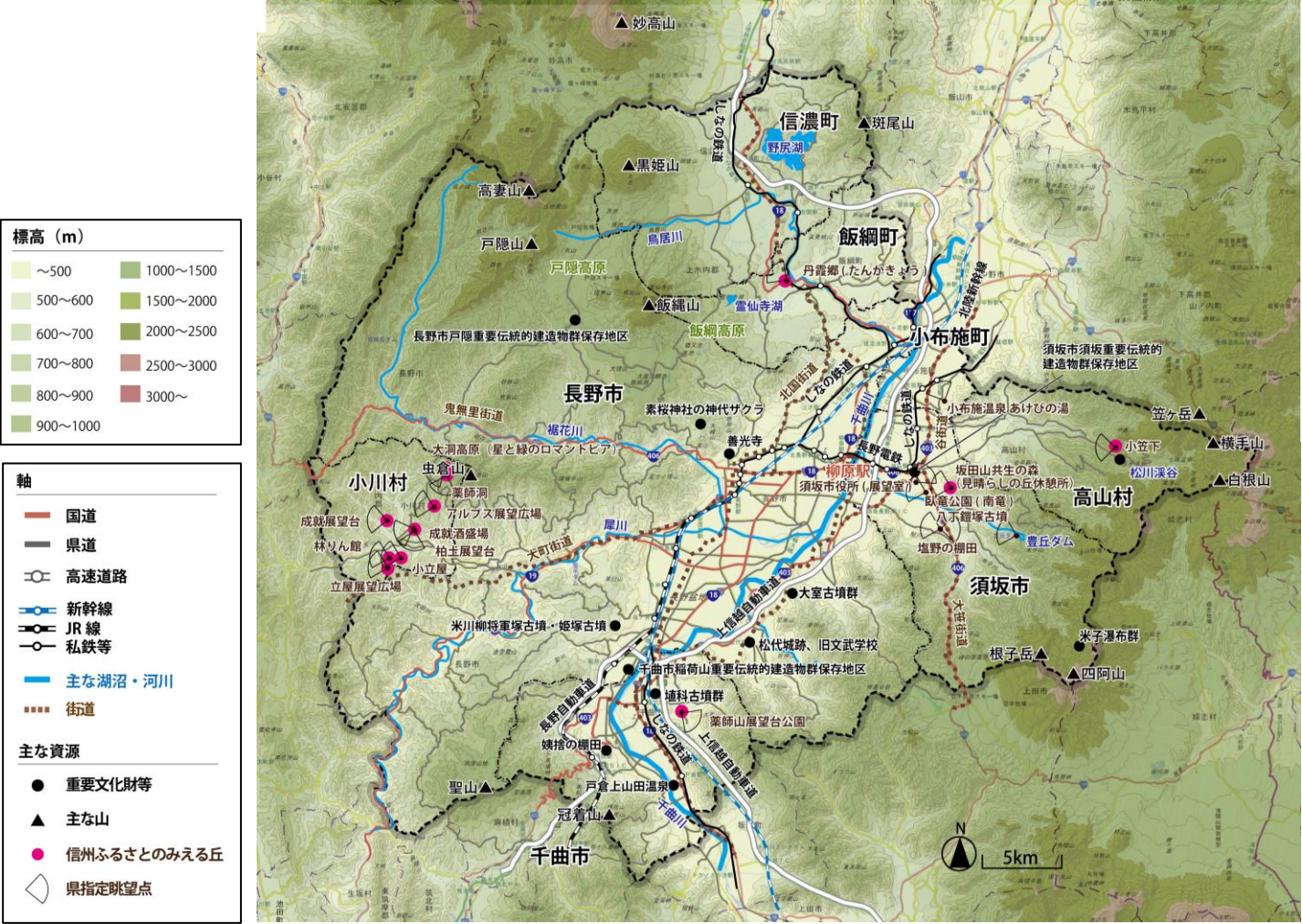
- 善光寺平を中心に政治・経済・文化・教育等の機能が集積し、多様な産業が栄えている。特に機械・電気・食品をはじめとした製造業は地域経済を牽引している。
- 豊かな地形と水によって、盆地に広がる水田、山間地の棚田等の多様な田園風景が形成されている。また、日照や昼夜の気候差によって果樹栽培が盛んであり、市場性・生産量ともに県内随一である。
- 交通環境の良さ、自然環境や果樹栽培、歴史的な資源を活かした観光業も盛んで、河川や水辺、北信五岳や四阿山等が形成する高原エリア等、四季を通じて多様なアクティビティが体験できる環境に恵まれている。

大切にしたい特徴

北信五岳、北アルプスをはじめとする山々への眺め／千曲川、犀川と中小の河川が形成する水のネットワーク／歴史のシンボルである善光寺と各地を結ぶ街道筋の景観／変化に富んだ地形に寄り添う農業景観(田園・果樹・高原野菜や酪農等)／野尻湖や高原等の四季を通じて様々な体験ができる豊かな自然／利便性の高い交通環境

主な視対象(広域的な景観要素)

- ・北信五岳(妙高山、黒姫山、飯縄山、戸隠山、斑尾山)
- ・北アルプス
- ・善光寺平を囲む山々の重なり
- ・千曲川、犀川
- ・河川周辺の市街地、田園集落、果樹等の栽培風景
- ・鉄道(しの鉄道・長野電鉄・北陸新幹線)



別名「芙蓉湖」とも呼ばれる野尻湖(信濃町)



丹霞郷と北信五岳への眺望(飯綱町)



栗の小径(小施町)



樹齢250年以上のしだれ桜と北信五岳への眺望(高山村)



須坂祇園まつりと蔵のまち並み(須坂市)



善光寺へ続く石畳(長野市)



北アルプスへの眺望と里の風景(小川村)



姨捨の棚田(千曲市)

2. 長野広域景観エリアの育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- 都市と自然・田園が高低差のある多様な地形の中で共存する特徴を活かす。
- 各地の歴史・文化的資源を良好に保全・創出するとともに、河川アクティビティやサイクリング、交通軸の豊かさ等、広域ネットワークにおける取組とも連携し、個性の異なる土地を巡る楽しみを育てる。
- 多様な地形に寄り添い展開するバリエーション豊かな果樹や野菜栽培、水田は、エリア共通の景観のベースとして、実りの季節のみならず、芽吹きや花等四季の楽しみとともに保全・育成する。

2)広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- 丘陵や高台から善光寺平と平を囲む山々（北信五岳や北アルプス等）を望む高低差を体感する眺め（例：坂田山共生の森、JR姨捨駅、小布施温泉あけびの湯、塩野の棚田）
- 千曲川沿いの橋梁、公園、サイクリングロード等河川沿いから盆地と山並みを望む眺め（例：大正橋、千曲川河川公園）
- 交通軸から連続的に望むシークエンス景観（例：北陸新幹線、鉄道各線の車窓景観、国道403号と千曲川展望公園）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域:歴史・文化、まち、交通軸が集積する善光寺平における広域景観育成の推進

- 善光寺平を望む眺めや盆地から周囲の山並みを望む眺望景観の確保
- 善光寺平を前景に周囲の山並みを望む視点場の整備（眺望支障物の撤去、案内サイン整備）、夜景等特徴的な眺望景観の保全
- 善光寺平を囲む丘陵地や緩斜面の景観の保全・育成（地形に寄り添う棚田等の田園集落や果樹栽培の風景の保全・活用、建築物・工作物）等の誘導

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域:景観拠点における景観育成と拠点を結ぶ景観軸における沿道景観の育成（国道18号、国道19号、国道403号、国道406号、高速道路(長野道・上信越道)、北陸新幹線 等）

- 善光寺と各地を結ぶ街道筋や千曲川、広域交通等、エリアをネットワークする要素を活かした景観誘導
→千曲川かわまちづくり（河川沿いの広域周遊ルートづくり）
→サイクルトレイン（しなの鉄道、長野電鉄）等の既存の取組との連携
→エリアの共通イメージをつくる統一サインの整備
- 沿道のシークエンス景観とともに特に眺望の美しい区間や眺望スポットの育成
- 景観軸として公共施設の質の向上（景観重要公共施設、デザイン協議等）
- 高速道路や北陸新幹線の沿道・沿線における屋外広告物のルールづくり（統一感を持った屋外広告物規制等）

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

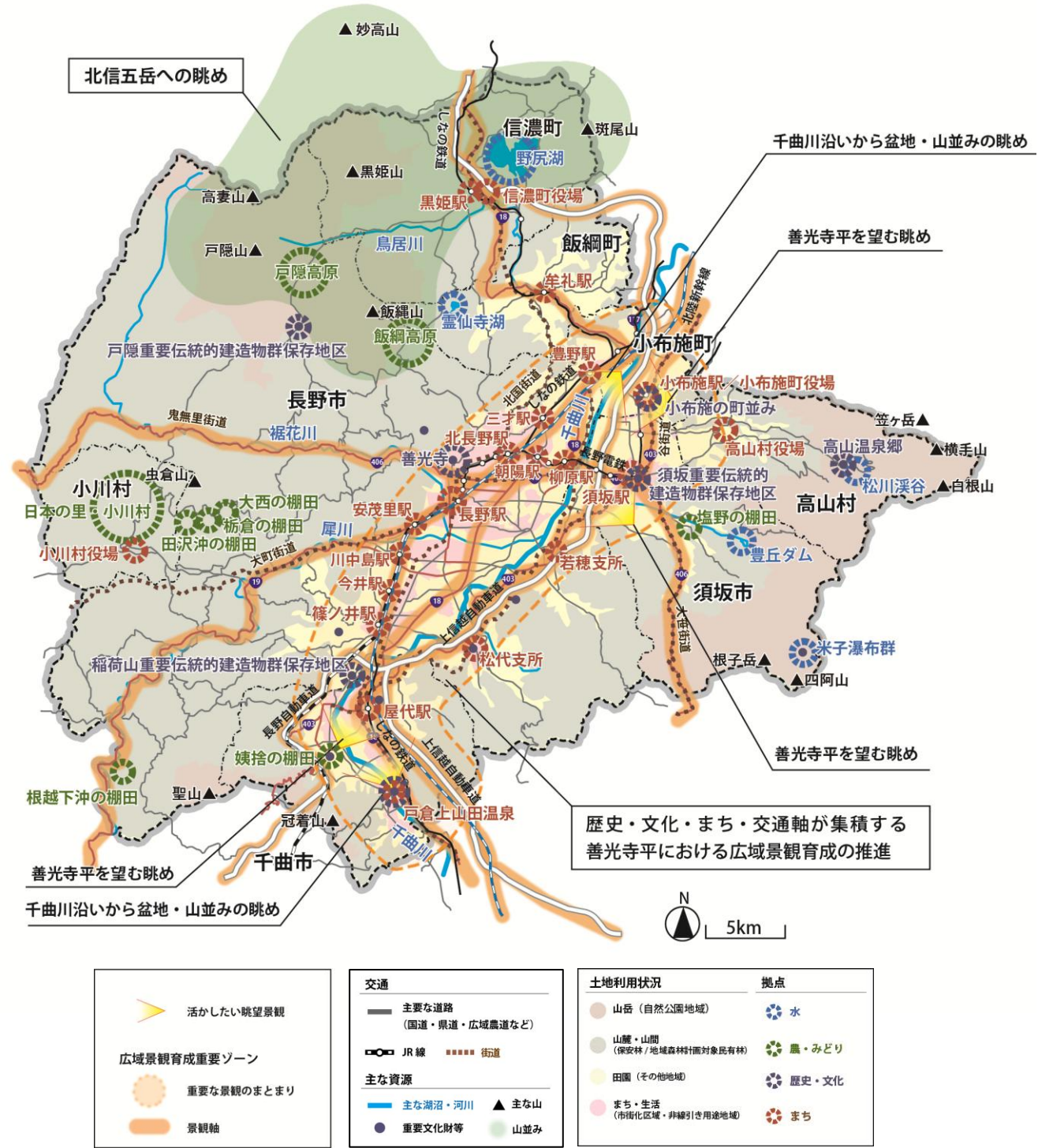
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- 身近な生活環境や歴史・文化等の地域固有の景観の保全・創造に活用されてきた既定の住民協定や活動の支援、担い手育成
- 住民や団体と連携した歴史文化的資源や河川・水辺、自然環境の保全活動

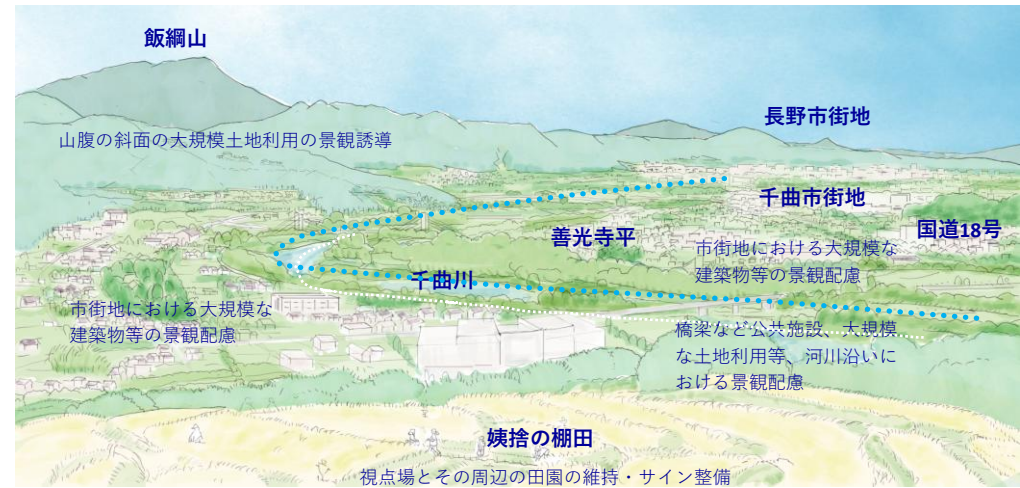
② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- 景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり（資源のリスト化やエリア統一の情報発信等）
- 県内随一の果樹栽培と連携したエリア振興策の検討（芽吹きや花、水の張った水田等四季も通じた魅力の発信、産地とセットでブランディング、ツアーへの活用等）
- 見るだけでなく、食等の五感、移動やアクティビティとも一体となった景観体験の構築

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



北信広域景観エリアの景観育成方針

中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村

1. 北信広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- 県の最北端に位置し、エリア全体で千曲川沿いの扇状地と周囲を囲む山並みをベースとしたまとまりのある景観が形成され、随所から高社山や北信五岳、千曲川と一体となった市街地や集落、田園風景を望むことができる。
- 志賀高原、斑尾高原等、東部山岳地帯は、ほぼ全域が上信越高原国立公園に属している。高社山より北は最深積雪が2 mを超える全国有数の豪雪地帯であり、四季折々の変化に富む景観を有する。
- 雪が多いことから高原には広大なブナの植生エリアが広がっており、水源涵養機能に優れたブナの森で浄化された清冽な水が千曲川の右岸・左岸から飯山盆地に流れ込み豊かな土壌を形成している。
- 高社山はエリアのシンボルであり「たかやしろ」「高井富士」等の愛称で呼ぶ地域もある。田園集落を前景に平地から望む景観、山頂付近から集落や河川・田園・周辺の山々を見下ろす景観のいずれも親しまれている。

○道路・交通(交通景観軸)

- 古くは信濃国稲荷山（長野県千曲市）～信濃国飯山（長野県飯山市）に至る谷街道をはじめ、現在のJR飯山線、国道117号、国道292号等、河川沿いに主要な交通軸が形成されている。
- 国道117号沿道は、山並みや千曲川、その周辺に拡がる里山を望む沿道景観が形成されている。

○河川・水辺(河川景観軸)

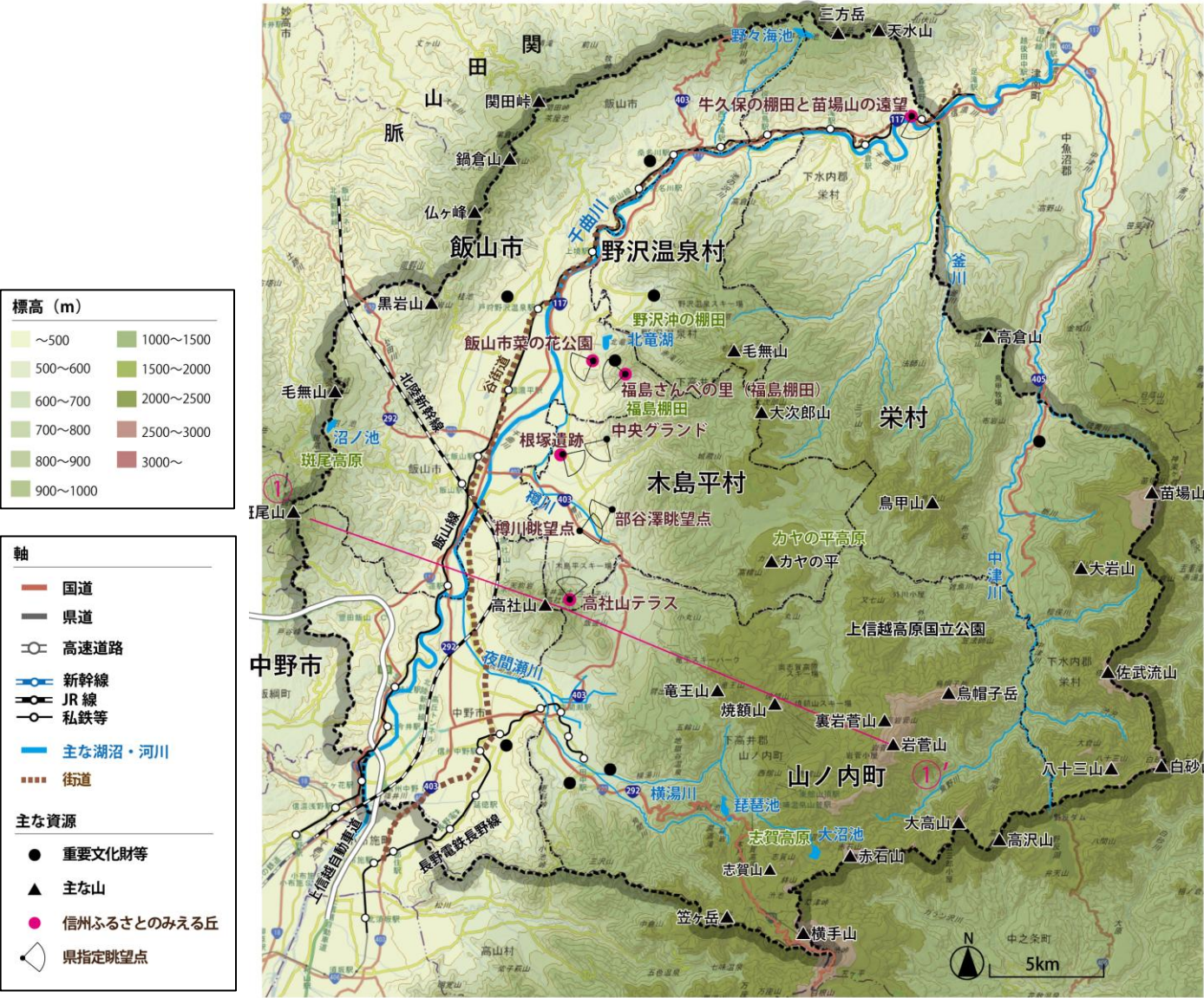
- 千曲川が骨格的な軸を形成しており、川と市街地、田園風景が一体となった景観が形成されている。また、沿川自治体が協働し、親水環境整備や水辺アクティビティの充実、広域観光ルートの構築等に取り組んでいる。
- 夜間瀬川をはじめとする河川が千曲川に流入し、河川や用水、池沼、滝、湧水等、多様な地形がもたらす水の景観が随所にみられる。龍興寺清水（平成の名水百選）をはじめとする湧水は暮らしの中で親しまれている。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

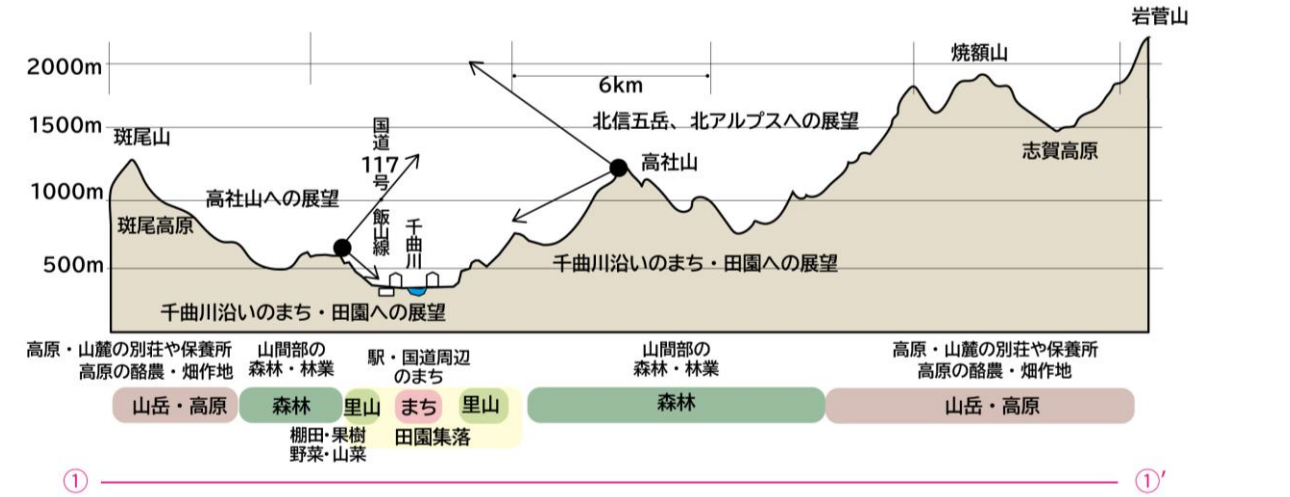
- 飯山市の寺町や小菅地区等の神社仏閣、湯田中渋温泉郷や野沢温泉等の温泉郷等固有の歴史・文化を有する。
- ふるさとの原風景が残る恵まれた自然環境を有し、中山晋平や高野辰之「故郷」「朧月夜」に歌われた里山の風景等唱歌の世界に由来する景観が数多く残されている。
- 道祖神祭り（野沢温泉村）、かまくら祭り（飯山市）等、気候風土に根付いた祭礼・行事が存在する。

○産業の景観

- 飯山仏壇、内山紙、中野土人形、栄村つぐら等伝統的工芸品を造る地場産業に加え、千曲川が形成する扇状地や周辺を縁取る山地に沿って水田や果樹栽培等の耕地が分布し、野沢菜等の伝統野菜、きのこや山菜、りんご、ぶどう、もも、プラム等の果樹、アスパラガス等野菜や米、高原の畜産やソバ、シャクヤク等の花き等多様な農業が展開されている。
- 志賀高原や北志賀高原、斑尾高原、カヤの平高原等の山岳高原、秋山郷等の豊かな自然環境、湯田中渋温泉郷や野沢温泉、エリアに多数あるスキー場等豊富な観光資源に恵まれた県内有数の観光エリアである。



断面図 ①-①'



千曲川・花の里風景街道・国道117号
(栄村、野沢温泉村、飯山市、中野市)



蛇行して流れる千曲川と田園(栄村)



野沢温泉・大湯(野沢温泉村)



田園集落と山々への眺め(木島平村)



小菅の里及び小菅山の文化的景観
(飯山市)



田園集落を前景に望む高社山(中野市)



湯田中駅と楓の湯(山ノ内町)

2. 北信広域景観エリアの育成方針

1) 広域景観育成の基本目標

- 南北を縦断する千曲川と交通軸（国道117号、JR飯山線）は、広域的な移動の軸、エリア内の景観育成の拠点へのアプローチ軸として、魅力を高めるとともにエリア内のまとまりが感じられる景観を創出する。
- シンボルである高社山、北信五岳への眺めは、その前景となる田園・集落の美しさとともに保全・育成する。
- 県内外、インバウンドの来訪者に親しまれ、観光資源としても重要な場所や資源を周囲の景観と調和するよう、良好に保全・創造するとともに、これらをネットワークし、エリアを巡る楽しみを育成する。

2) 広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- 千曲川沿いの田園集落を前景に平地から望む高社山、北信五岳への眺望景観（例：中野市たかやしろ・見晴らし街道、飯山駅ホーム、千曲川沿いの田園地帯）
- 千曲川沿いの橋梁や公園等の眺望スポットから飯山盆地を望む眺め（例：中央橋、飯山市菜の花公園）
- 山々や高台から望む飯山盆地とそれらを囲む山並みから成るまとまりのある景観（例：高社山テラス）
- 鉄道（JR飯山線・北陸新幹線）から連続的に望む景観（例：JR飯山線、北陸新幹線の車窓景観）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：高社山麓・千曲川下流域景観育成重点地域(当初指定範囲を含む)をベースとした景観育成

- 景観行政団体市町村と長野県の景観計画に定める景観育成基準の統一したルールづくり（基準や取扱い等）
- 高社山等地域のシンボルとなっている山並みを背景とした眺望景観の保全
- 飯山盆地に広がる田園集落、山麓の果樹栽培の風景の保全・活用

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：千曲川と周囲の山並みが一体となった景観軸の景観育成（千曲川、国道117号、国道292号、国道403号、国道405号、北陸新幹線 等）

- 主要な交差点、橋梁等ポイントとなる場所の景観整備、沿道の道路付属物等の景観配慮
- 沿道のシークエンス景観とともに特に眺望の美しい区間や眺望スポットの育成
- 建築物・工作物や屋外広告物のルールづくり、統一サインやエリア内の巡りを促すサインの整備
- 公共施設の質の向上（景観重要公共施設、デザイン協議等）
- 千曲川・花の里山風景街道（一般国道117号）、千曲川かわまちづくり（河川沿いの広域周遊ルートづくり）等の既存の取組と連携した景観育成
- 国道117号や北陸新幹線の沿道・沿線における屋外広告物の規制誘導

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

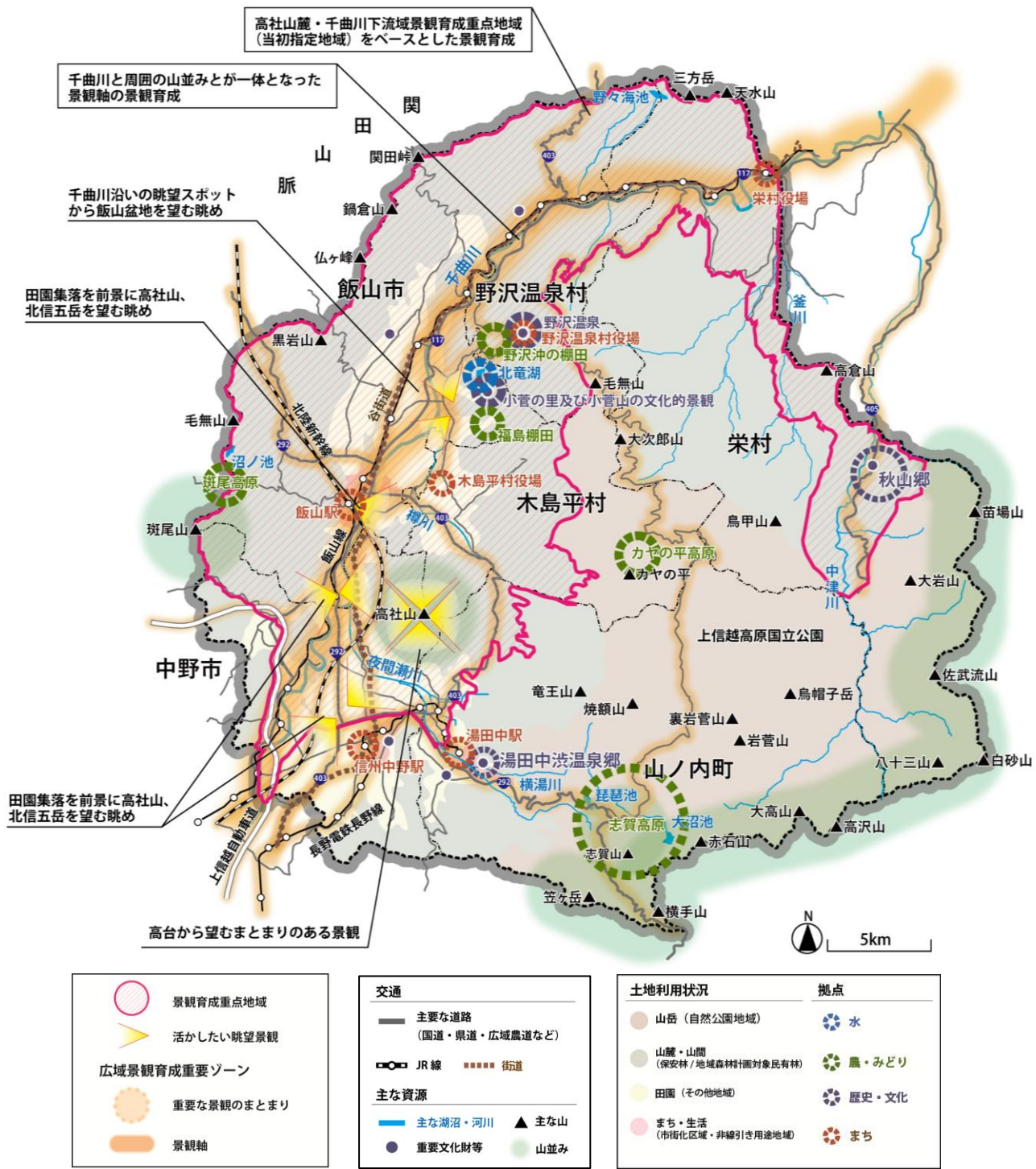
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- 住民協定や住民主体の活動の支援、担い手育成（身近な生活環境（市街地、集落地）や歴史・文化的まち並みや自然・田園等の保全・創造）
- 景観拠点とその周辺における、花・みどりづくり、案内サインづくり、インバウンドへの対応も含めた建築物や広告物のルールづくり

② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- 景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり（資源のリスト化やエリア統一の情報発信等）
- 豪雪地帯ならではの雪景観や四季折々の景観、スキー場・ウィンタースポーツ文化を生かしたエリアブランドの形成及び情報発信
- 飯山仏壇、内山紙、中野土人形、栄村つぐら等伝統的工芸品を造る地場産業を活かした景観（まち並みや産地の維持・保全、建築物やサインへの技術活用等）
- 水田や果樹栽培、野沢菜等の伝統野菜、きのこや山菜等、多様な特産物と景観を結びつけるエリア振興策の検討（産地とセットでブランディング、ツアーへの活用等）

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ

